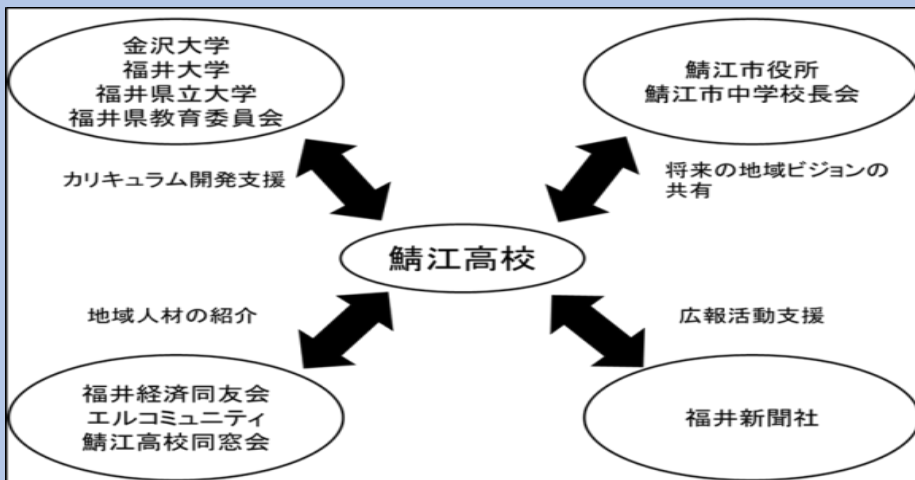


鯖江型高校教育「オールSABAE」の構築のもと、持続可能な地域社会を形成する市民の育成

本校では平成29年度より鯖江市役所と協働で「鯖江市デジタルパンフレット」を作成し、全教科で地域教材を活用した授業開発を実施してきた。この取り組みをさらに深化させるため、行政、地元経済界、NPO法人など地元鯖江に根差した各種団体との結びつきを強化し、地域と協働する高校教育のモデルづくりを進めていく。

コンソーシアムの体制



関係機関の役割

<p><b>【大学等】</b> カリキュラム開発と評価に関する指導・助言</p>	<p><b>【自治体等】</b> 将来の鯖江市についてのビジョンの提供と共有</p>
<p><b>【地域団体等】</b> 探究活動に資する地域人材の紹介・調整</p>	<p><b>【メディア等】</b> 市民への情報発信及び本事業成果の発信に関する研究開発の支援</p>

令和3年度の目標

- ①3年間のカリキュラムの作成および評価方法の開発
- ②地域に根ざした学校を目指した探究活動や授業の実施
- ③授業改善に関する教員研修の企画・運営

取組状況

- ①これまでの実績を踏まえたカリキュラムの内容の見直し、および企画・運営
- ②地域の人材や素材を活かした教育活動の企画・運営
- ③鯖江の現状や未来を見据えた教員研修会の実施

成果

- ①3年間のカリキュラムの確立
- ②鯖江市・鯖江商工会議所との連携、および仁愛大学との連携による教育活動の充実
- ④教員研修の継続的な取り組み

課題

- ①本事業終了後も、地域との連携のよりよい在り方について、今後も検討していく必要がある。
- ②生徒数が増加し、全員が一斉に活動するのが難しい状況にある。活動しやすい方法を検討していく必要がある。
- ③総合的な探究の時間のカリキュラムは確立してきたが、調整すべき部分もある。また年度が変われば学校も地域も人が替わるため、安定した運営ができるようにしていく必要がある。